

根室市立学校適正配置計画〈概要版〉

人口減少・少子高齢化の進行や産業構造の変化、ICTやグローバル化の進展などにより、人々の価値観や生活様式が大きく変わり、将来の予測が困難な時代になっています。このような変化の激しい時代にあって、子どもたちが未来に向かって様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓いていくためには、自らの良さや可能性を認め、地域など多様な人々と連携・協働しながら、学び・成長していくことが大切です。

根室市教育委員会では、当市の地理的条件や地域ごとの特色・学校現場の状況等を踏まえ、将来の人づくり・まちづくりにつながる学校教育環境の向上を目指し、「根室市立学校適正配置計画」を策定します。

目的

本計画は、当市を取り巻く社会情勢を踏まえ、国の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」「根室市総合計画」「根室市公共施設グランドデザイン構想」等との整合性を図るとともに、平成29年に策定した「根室市における小中一貫教育推進基本方針」との一体化を図り、当市における小中一貫教育推進の方向性も含め、根室市立学校の学校規模の適正化及び少子化に対応した活力ある学校づくりを目指すことを目的として策定するものです。

本適正配置計画の期間は、令和6年度から令和10年度までの5年間とします。

将来的な方向性

【市街地校の方向性】

- 市街地校を「西部市街地学校エリア」と「東部市街地学校エリア」の2つに分け、校舎の老朽化対策も含め、市街地の東西に各1校ずつ義務教育学校を配置する方向で検討を進めます。

【郡部校の方向性】

- 校舎の老朽化対策を進めるとともに、それぞれの地域の特色を生かした多様な教育活動を展開し、市内外の児童生徒、保護者が自分にとって望ましい教育環境を選択できる制度を検討しつつ、存続を目指します。

- CS（コミュニティ・スクール）の活動活性化により、地域ならではの創意工夫を活かした学校づくりに繋がります。

適正配置計画の進め方

～各CS(コミュニティ・スクール=学校運営協議会)地区の学校のあり方～

【柏陵校区（北斗小・柏陵中）】

- 北斗小学校はR6年度以降に校舎移転・改修に向けた基本設計に着手、柏陵中学校との併置校化により、義務教育学校への移行に向け検討を進めます

【海星校区（海星学校）】

- R5年度に義務教育学校へ移行
- 今後、校区外から児童生徒を受け入れるための特色ある教育活動を展開し存続することとします

【厚床校区（厚床小中学校）】

- R5年度に中学校校舎改築に向けた基本設計に着手、R6年度より義務教育学校へ移行します
- 地域の文化・風土を取り入れた教育活動を展開し存続することとします

【光洋校区（花咲港小・花咲小・成央小・光洋中）】

- 花咲港小学校は、インクルーシブ教育の取組を深化・継続し、校区外からの児童受け入れ環境の整備を図りながら単独校で存続することとします
- 花咲・成央小学校・光洋中学校については、当面単独校として存続し、将来的に3校併置による義務教育学校化について検討を進めます

【落石校区（おちいし義務教育学校）】

- R5年度に小学校舎等の改修及び中学校舎の移転改築を実施、R6年度より義務教育学校へ移行します
- 地域と密着した学校として存続することとします

【歯舞校区（歯舞学園）】

- R2年度に義務教育学校へ移行
- 地域と連携した「はばまい学」を展開し存続することとします

根室市立学校の現状と課題

- 児童生徒数は、昭和37年の8,804人をピークに、令和5年度では1,421人となり、約84%減少しています。今後、更なる減少が予測されます。
- 学校数は、小中最大で28校ありましたが、昭和40年以降統廃合が進み、令和5年度では小学校6校、中学校4校、義務教育学校2校となっており、児童生徒数の減少による小規模校化が進んでいます。
- 校舎・体育館総面積の5割が建築後50年以上経過しており、特に市街地地区の北斗小学校・成央小学校・光洋中学校は大規模な改修の検討が必要となっています。

